

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4690100039
法人名	有限会社 ライフサポート吉満
事業所名	グループホーム みどり
訪問調査日	平成 20 年 2 月 21 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 27 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4690100039
法人名	有限会社 ライフサポート吉満
事業所名	グループホームみどり
所在地	鹿児島県鹿児島市川上町3561 (電話) 099-295-7333

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成20年2月21日 評価確定日 平成20年3月27日

【情報提供票より】(20年 1月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 15人, 非常勤 1人, 常勤換算 15.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54000円(光熱費込み)	その他の経費(月額)	実費	円
敷金				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	- 円
	または1日当たり	1300 円	おやつ込み	

(4) 利用者の概要(1月 15日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	3名	要介護2	7名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	73歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	植村病院 緑ヶ丘クリニック 大迫歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設2年目のグループホームである。利用者は中庭のウッドデッキを活用して、日光浴・散歩・家庭菜園など楽しんでいる。昨年11月に、職員の大規模な入れ代わりがあったが、現在の全職員が、これからのグループホームみどりの質の向上に取り組もうとしていることが、ミーティングの記録や職員の話から伺える。地域密着型サービスの施設としてこれからは楽しみなグループホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	食事のとき、職員は利用者と一緒に食事をとってなかったが、現在は一緒に食事をしている。玄関の施錠は、1ユニットから開始して現在2ユニットとも施錠していない。栄養のバランスのチェックは一回のみ行われ継続されなかった。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年の11月から職員が大幅に変わり自己評価は、管理者がほとんど取り組んだ。来年は、全職員で自己評価に取り組むことを望みます。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	3ヶ月に1回の開催になっており、事業所からの状況報告にとどまっている。2ヶ月に1回開催し、家族代表・行政担当者・地域の方々などの協力をいただき、事業所の質の向上にむけての話し合いになることを望みます。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会はなく、個々の面会時・電話での意見・要望を聞き、全職員は、申し送りノート・ミーティングで共有し、話し合っている。一度に数家族でも一緒に話し合える場面づくりを希望します。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入することを現在検討中である。地域の老人会・婦人会のボランティアなどを受け入れている。町内会に加入後は、利用者が町内会の行事に参加できるように望みます。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の地域密着型サービスとしての理念を作っている途中である。		これまでの理念に加えて、家庭的な環境と地域住民との交流を取り入れた理念を作り上げることを期待します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送りの中で理念を唱和している。職員は、理念を頭においてケアサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会加入について現在検討中である。地域の老人会・婦人会のボランティアなどを受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員全員で取り組まれていない。昨年の外部評価は、ミーティングで話し合っている。		自己評価は、職員全員で取り組み、外部評価の改善点についても継続して取り組むことを期待します。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回運営推進会議を開催している。事業所からの状況報告にとどまっている。		2ヶ月に1回の開催を計画され、毎回家族代表・行政の職員など幅広い立場の方々の参加する会議とし、そこでの意見をサービスの向上に活かしていくことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護の関係の担当者が事業所へ来所することはあるが、福祉関係では、事業所が出かけていくことがほとんどである。		事業所から市の担当者・包括支援センターへの働きかけを行い、市町村と共にサービスの質の向上に取り組むことを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月ホームだよりで暮らしぶりを報告している。個々の健康状態は、面会時や電話で報告している。金銭出納簿は、毎月コピーしてホームだよりと一緒に送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は無く、面会時に意見・要望を聞いている。意見・要望は申し送り職員は共有し、ミーティングで話し合っている。		家族の集まる機会を設けることを望みます。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	去年は開設一年目で離職が多かったが、現在は定着している。引継ぎを1ヶ月設け利用者へのダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、職員会議等で全職員が共有している。毎日、昼のミーティングで内部研修をして、レベルアップをしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの職員の見学を予定している。今後吉野・川上地区の勉強会を予定している。		交流の機会をこれからも計画され、サービスの質の向上を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族と見学に何度か来ていただき、レクレーションなどに参加して、馴染んでいただいている。また、待機者の方々の家を訪問し職員と馴染みの関係を作っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>野菜作りの指導をして頂いたり、雑巾作り・門松作りなど得意分野を発揮してもらう場面づくりをしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>会話や日々の生活の様子から意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎日昼のミーティングでカンファレンスをしてケアについて職員間で話し合っている。往診が毎日あり気付いたことは、医師に相談・報告している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態が安定している場合は、六ヶ月に1回、変化があった場合は、その都度介護計画を見直している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎日、往診をしてもらっている。家族の要望に応じて病院受診に付き添っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医師をかかりつけ医としている。病院からの情報を頂いてケアプランにあげている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化については、まだ対応していない。急変時の対応は、家族から同意書をもって方針は統一している。重度化・終末期に向けた方針は、今考えているところである。		重度化・終末期のあり方について、方針を統一されることを望みます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングでプライバシーの勉強会をしている。声かけは名字で呼ぶようにしている。書類の取り扱いも裏返しにするなど気をつけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	晩酌を楽しんだり、寝坊する・買い物に行く、などできるだけ希望に添えるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者も一緒に調理・盛り付けをして、職員と一緒に食事をしている。バイキングやそうめん流しなど場面づくりをして楽しんでいる。飲食店へ軽食を食べに行くこともある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	二つのユニットで交互に風呂を沸かし、毎日入浴することは可能である。入浴拒否については声かけを工夫して対処している。二人で入浴して楽しんでいる利用者もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の司会でレクリエーションをしたり、らくらく体操・造花作り・カレンダー作りなど場面づくりをして利用者の力を活かした支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎週2回ぐらい公園・足湯・団地めぐりなど、ドライブに出かけている。中庭のウッドデッキには自由に出入り日光浴を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昨年は、交通量を気にして要改善点であったが、現在は鍵は掛けていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防訓練をしている。地震想定訓練はしていない。消火器の点検・避難誘導の訓練はしている。		地震想定訓練・避難誘導訓練など自主訓練を繰り返し、全職員が自信を持って行動できることを期待します。飲料水・非常食の備蓄を望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1000~2000ccを目標にして摂取の記録をしている。刻み食・ミキサー食にも対応している。栄養バランスのチェックはしていない。		栄養バランスについて専門的なチェック・意見をもらうことを希望します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は、天井が高く吹き抜けになっている。中庭のウッドデッキには2つのユニットそれぞれから自由に出られ、日光浴ができるように椅子が置いてある。浴室・トイレは、十分換気がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの木のベッドが置かれ、使い慣れたタンス・椅子などを持ち込んでいる。ベッドからの転落予防のために板の間に畳を敷き、布団を敷いて工夫している。		